

届け 世界の果てまでも

令和2年 9月15日

No. 32

文責 校長 飯久保一男

授業をさせてもらえました

ちょっと自慢が過ぎるような通信になってしまいました…。

5年1組の半田先生が介護休暇に入り、代替の先生（10月より勤務です）が来るまで、5年生（5年1組だけかも）の図工の授業を私がさせてもらうことになりました。とはいっても、運動会の練習などで、あまりできないかもしれません…。11日（金）に、5年1組・2組（2組は強引に…？）とも1時限ずつ図工の授業をさせてもらい、動くおもちゃづくりをしました。初めての授業ですので、楽しくできる授業にしました。

…ちょっとごまかしたような授業にしてしまったかもしれません。1学期から「授業をしたい」「授業をさせてくれ」と暗に訴えてきていたのですが、心優しい（語弊があります）担任は現れず、あきらめかけていたところでした。

教師の指導の中には「ハッター」に近いもの（語弊がありますし、私だけかもしれません）があります。

例えば…、跳び箱が跳べない子を指導するときに「私が教えた子で跳び箱を跳べなかった子はいない。私の言うとおりにやれば絶対跳べるようになる。」と宣言してしまうのです。つまり「ハッター」です。もちろん、跳び箱が苦手な子に跳び箱を跳ばせるための指導の研究はしっかりしてあることは当然です。そうやって指導を始めますと、1人・2人と跳べる子が現れます。こうなったらシメタモノです。この先生の言う通りにすれば、跳べるようになるという信頼が生まれ、跳べなかった子が、見事、全員跳べてしまうものなのです。教師への信頼と言えば聞こえもいいですが、もしかするとある種の集団催眠に近い感じかもしれません…。

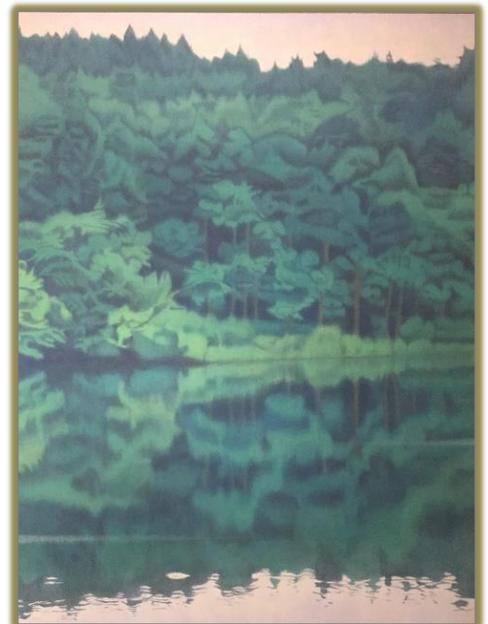
そんな「ハッター」の意味もあって、図工の授業に飛び込み※で行くときには、まず、私の作品を紹介しちゃいます。強引に尊敬させてしまう感じになりますが「この先生、絵がうめえ！」と思わせることができればシメタモノです。その後の言葉が効いていくのです。

このやり方は、「絵が描けないと図工の指導はできないのか」と反感を買う恐れのある方法ですが、多少は絵が描けるという特技を生かした方法でもあります。

もちろん、自分は絵を描かないけれど図工・美術の指導の優れた教員をたくさん知っています。

※「飛び込みの授業」…それまで授業をしていないクラスに特別に授業に入ること

自慢になってしまうと思いますが、右の絵は、何度か展覧会に出品した中で、一番いい賞をもらった作品「湖映」（60号1303×970mm）です。



さて、授業です。「やっぱり、授業をするのは楽しいなあ」これを再確認しました。そして「5年生がかわいいなあ」というのが正直な感想です。5年生にかわいいというのは失礼かもしれませんが、だって、かわいいと思ったのですから仕方ありません。「ハッター」が効いていたのか、私が黒板にかく図に対して「うめえ」といちいち反応してくれたり、私の指導を素直に受け入れてくれたり、かわいい以外の言葉が見つからないのです。なにより、出来上がった作品を見て、動かしてみて、喜ぶその笑顔がとってもかわいかったです。



前日、いくつかある持ち物の中の一つに「集中力」と入れて担任に渡しました。いい「集中力」をもった授業になりました。松田 t から「集中力を忘れたという子がいます」との報告がありました。5年生、ナイスツッコミです！

今年度の学校経営方針の一つに

教師は授業で勝負をするという気迫をもった 教師力

を掲げ、本校教職員に、教員は授業で勝負をするんだと伝えてきています。教師の仕事の一番の中心は授業をすることです。授業がいい加減な教師にいいクラスはつくれません。そして、授業の場は、教師が力を発揮する場であるとともに、子どもを理解するための一番大切な場です。

授業中に教室にプラプラとお邪魔していますので、子どもたちの様子はなんとなくわかります。しかし、授業をしてみると、「この子はこういうよさがある子なのかあ」「この子はこういう特徴があるんだ」などと、子どもたちのことが、よりよくわかるのです。教師にとって、子どもを理解するためには、授業を試みることが何よりのことです。もちろん、一回や二回、授業をただで、その子をわかったつもりになることは危険ですし、おこがましいことです。

この紙面でも紹介していますし、ホームページの【学校のひろば】でもときどき紹介していますが、日本の学校には「校内研究」という文化があります。本校では、研究テーマを

研究主題 一人ひとりを大切にする学習活動の研究

研究副主題 主体的・対話的で深い学び合いを意識した授業づくり

として、研究を重ねてきています。7月14日の4年3組の授業研究会を皮切りに、2学期には10月に、2年2組の授業研究会と続き、その後もいくつか授業研究会が計画されています。

どういった授業が「一人ひとりを大切にする」授業なのか、どう授業をつくっていけば「主体的・対話的で深い学び合い」となるのか、授業について共有するイメージをつくりながら、教師力を磨いていきたいと思っています。本校の校内研究を「小笠原小の教職員一人ひとりを大切に」「教職員一人ひとりが、主体的に、深く学び合う」ものにしていきたいと考えています。

校長たるもの、教職員に見本となる授業を見せられればいいのですが…。もっと授業をやらしてくれねえかなあ

図工・美術の教師にとって、図工・美術のよさ・すごさを実感でき、そして、ホッとさせる言葉です。

中学の美術の先生が授業でこう言った。

「英語ができると17億人に伝わるけど、絵がうまいと70億人に伝わるんだ。」
休み時間に絵ばかり描いていた私を冷やかす人がいなくなった。

